



## 大地申第2号

JR東労組大宮地本 第24回定期大会

2023年7月27日提出

# 「JR東労組大宮地本第24回定期大会」の発言に基づく申し入れ (その2)

第24回定期大会では、モードチェンジと称した労働強化に対し不安や不満、怒りの声が多く出ている実態が職場から発言されました。全系統で、将来に希望が持てず若年退職が加速し、組織再編を契機に企画業務が現場へ移管されたことにより、労働密度が高まっています。豊田運輸区における人間破壊とも言える強制転勤を見てわかるように、社員の心身を破壊してまでも要員不足の補充のために、異動発令を強行する姿勢は許されるものではありません。

また、現場に移管された企画業務により「非番でも帰宅できずに休養確保が出来ない」「本来業務よりも企画業務に追われている」という悲痛な声が職場から聞こえ、鉄道事業における安全哲学の再構築と技術・技能継承が大きな課題といえます。

宇都宮運輸区における長期にわたる懲罰的日勤教育とパワーハラスメント・恫喝により、組合員が医療保護入院にまで追い込まれ、日常生活さえもままならない状況となっています。

車両メンテナンス部門においても、緊急事態宣言が発出されていますが、何故そのような事象が発生しているのか原因究明されていません。いつ大きな事故が発生してもおかしくない状況であると認識して、一つひとつの事象の本質を掴み、対策しなければなりません。大宮地本は今後も、原因究明委員会を開催して、安全哲学の再構築と鉄道の安全・安定輸送を守り抜くために、職場から議論をつくりだしていきます。

厳しい経営環境と要員需給の中でも各種施策に向き合い、職場で奮闘している組合員・社員の努力を受け止めると共に「安全・健康・ゆとり」を実感できる職場の実現に向けて申し入れを行いました。

## 申し入れ内容

1. 繰り返し発生する事象の根絶件名をはじめとして、事象の発生が続いていることから、  
ヒューマンエラー発生0を目指したトライゼロの取り組みを定着させるため、「4M4E」  
分析手法等による徹底した原因究明により、安全第一の職場を構築すること。
2. 安全風土を確立し、確実に技術・技能継承を行うため、指導体制を  
強化すること。



# 安全レベルを向上させ安心して働ける職場をつくり出そう!